



(先生と一緒に竹馬の稽古)

この頃の 私の幼稚園

内匠慶子

1 のびのびとした子供に

「先生、一寸来て御覧、はじめて出来るようになったのよ。」と私の手を引張って行くのは、先程から竹馬を一生懸命稽古して居た子である。やつと一人で出来るようになったその姿を、私に見せたい為であった。

F子は十ヶ月程前に父親を亡くし、母親が勤めをもつ不幸な子供である。その上、性的な問題があり、ともすれば陰うつな表情を示す、意欲の乏しい子供であったが最近非常に明朗になり、自然、遊びも積極的にと変化して来て居る。ここ二、三日と言うものは何も忘れて真剣に竹馬と取組んで居る。

壁に凭れて足を乗せ、背中を軽く押して歩き出す。一、二歩行けば又落ちる。これを何度も何度も飽きずに繰返して居る。しかしこの努力がとうとう笑を結んだのである。何時の間にかF子は竹馬を上手に扱おうようになって居る。はじめは怖そうに竹にかじりついて居たのが、今ではその手も軽くなり、身体の平均をうまくとって悠々と歩いて居る。

その得意満々とした表情！ 何物かを征服

した喜びのF子の姿。これは自分の力に自信を得た喜びである……この心情がつまり安定感となり、満足感となって心にゆとりのあるのびのびとしたF子の姿を作ったのである。

× × ×

又、或日のこと、食後暫くしてお部屋の中で面白い遊びが始まった。五、六名の男児が四つん這いになって一直線上に並び合図に合せて一齊に走り出す。そして積木を一個ずつめい／＼に取って来ては力一杯走って帰る。

不思議に思つて、何の遊びかと尋ねれば、「ねずみの餅ひき」だと教えてくれる。その中には、ちゃんとりーダーになる子供が居てお餅になる積木を並べたり、出発の合図をしたりして居る。それがそのグループでは遊びのきまりもよく守られて居て実に楽しそうなのである。

これは自由遊びの風景を二、三キヤツチしたのに過ぎないが、私共の園ではこのように保育の形態としては自由保育を主体として居る。このように全く自由性をもった自然あそびの外に、室内での自由作業を重視して居る。

る。つまり室内に於て、何時でも好きな作業が出来よう環境を用意して居るのである。例えば、のび／＼とした絵の描けるポスターカラーの用器、それから大、小、各種の紙類、糊、ヒゴ、紐類、木片等の材料をはじめ、部屋の片隅にはままと道具とお人形、絵本等、かめの中には何時でも適度の軟らかさを保たせた粘土を用意して、一人一人の欲求に答えるべく、積極的な働きかけを待つて居るのである。

この中に育つて行く子供達は、実に逞しい意欲をもって、自発的に遊びを工夫、創作して行く。思い／＼の好みの色を含ませた絵



(ポスターカラーの絵かき)

筆を自由に動かして、心の内面を表現して行く子供、王子様ごっこに必要な冠を夢中になつて作つて居る子供、郵便ごっこをはじめめるのか、ポスター作りに専念する子供、又は金魚やお魚を沢山作つていると思うと、そこでは金魚すくいや、魚屋ごっこがはじまつている。このように子供達は、次々に遊びを生み出しては発展させて行くのである。

私共は、それ／＼の遊びの中の一メンバーとなつて、側面からその遊びの成長を見守つて居るのである。このような生活経験をもつ子供達は、だん／＼と自分の考えがはつきりして来るから、思うことがそのまま表現出来るようになって来る。つまり他人の模倣ではなくして、自分自身の直感による表現、言い替えれば創造性が養われて行くのである。

2 きまりのある子供に

「のび／＼とした子供に育てましょう」と言うことは私共の園の第一の目標で、年間を通じてその方向へと進んで来て居る。

絵はその子供の心の現れだ、と言つて居るが、ポスターカラーによる絵筆の跡を見てもその伸びやかなことは最近、殆んど全児に於



(お話に聞き入る子供達)
「おむすびコロリン」

てその姿が見られるようになって来たようである。日常生活態度にもそれが現れ、非常に明朗で、快活で、のび／＼として居り、自分の考えでだん／＼行動(作業やあそび)が出来ようになつて来て居る。つまりどの子供も劣等感と言うものを持たない楽しい社会となるよう(子供の)お互いにどの人格も尊重し合うように導いて居るのである。

だから一人一人の子供が家庭に居る時と、少しも変らぬ楽な気分、即ち精神的な開放がなされて居るから、恥かしがらずに堂々と自

分の思つた事が出来るようになって居る。

しかしその反面又、私共の頭を悩ます一つの問題があるのである。それは、「自由の中にも必要なきまり」換言すれば、躰の根本線をどこに引くべきか？と言ふ問題なのである。過去に於ける保育では、あまりにも無意味な、形式的な躰が多かつたのではなからうか。又反面、自由を与え過ぎると、我儘、氣儘になり集団の場に於ても、仕度い放題なことをやる結果となるのである。

例えば、

1、静かにお話を聞かなければならない時にゴソ／＼隣の子供とお話をしたり、

注意散漫になることがある。

2、他人の迷惑を顧みず、遊具を独占したり順番を待たないで先を争う子供がある。

そこで私共は絶えず、このことを反省してこの点を何とかうまく導いて行きたいものと思つている。どうすれば、のび／＼とした中にも自己統制のとれた子供になるだろうか。「必要な場合に必要なきまりの守れる子供」やはり集団生活を営む以上は、この態度がどうしても必要となつて来るのではなからうか。

か。それを無意味に押つけるのではなくて、飽迄も子供自身が理解し、納得したものでなくして身につけて行かない。それには何か問題(例えば、けんか)が起きた時に子供達で相談して適当なきまりを作つて行くのも一つの方法である。

又或時には相当厳しく注意をすることも必要であろうし、それはその子一人一人の性格によつて適当な方法を考えねばならないと思う。「あっさり叱つて、すぐに和睦をせよ」と言つたミスシヨウの言葉も非常に参考になると思う。

ここでもう一つ考えなければならぬ事は叱る前に何故そうなるか、とその原因をよく考へて見なければならぬ。何故なら、大勢集つた時にお行儀が悪い、と言つても、前で作つて居ることが見えなかつたり、集る時間が長すぎたり、原因をこちらが作つて居る場合が応々にしてあるからである。

3 形式よりも一人一人の成長を

このようにして考へてみると、過去に於て不合理な形式主義的な催しが沢山あつたのではなからうか。例を挙げてみると、入園式や

終了式の形態、運動会からお遊戯会に至るまで、あまりにも大人本位に考えられ、「見せる為のもの」のようになってしまつて居た。

この場合、一人一人の子供の成長を考へてみると却つてマイナスになつて居る場合さえあるのである。私共の園に於ては最近、一つ一つの行事をよく吟味して、本当に子供一人一人の成長に役立つべく内容や方法を改めて居る。どの子供もみんなが楽しめる催しであるよう(大人本位にならないこと)に気を配つて居るのである。

日常生活の中にも、行事の中にもまだまだ無駄や不合理な点があるから、私共は先ず自分達の生活から改善をはじめている。従來の仕来り通りだからと過すのではなく仕事の能率化を考へて、出来る丈無駄を省き、自由研究の時間を生み出して居る。そして人間的なより深い教養を、たかめると共に豊かな情操を食うべく努力して居る。

これがひいては、子供達の幸福となることを折りつづ……。

(神戸市立楠幼稚園主任)